看護理工学会
The Society for Nursing Science and Engineering

# ニュースレター

No.16

2025年8月27日発行

## 今号のトピックス

### ◆真田弘美先生 ICN(国際看護師協会）インターナショナル・アチーブメント・アワード受賞

真田 弘美 先生（元看護理工学会 理事長･石川県立看護大学 学長･東京大学 名誉教授）

### ◆リレー執筆第6弾 “理事からのご挨拶”

松田 友美 先生 （ 山形大学大学院 医学系研究科 看護学専攻在宅看護学分野 教授 ）

### ◆第７回ものづくり体験ワークショップ報告

北村 言 先生（石川県立看護大学 看護専門領域 成人･老年看護学講座 老年看護学 教授）
「看護理工学会次世代委員」

### ◆第13回看護理工学会学術集会メッセージ

次大会長 平井 慎一 先生（立命館大学 理工学部 教授）

## ◆真田 弘美 先生 ICN（国際看護師協会）インターナショナル・アチーブメント・アワード受賞

真田 弘美 先生　（石川県立看護大学 学長・東京大学 名誉教授）

### 「ICNでの受賞に関する御礼」

最近、大変うれしいことがありました。それは、ICN（International council of Nursing）、これは国際看護協会と訳していますが、日本看護協会の推薦を受け、フローレンスナイチンゲール基金から、この度、International Achievement Awardを頂くことができました。この賞は､1999年にはじまり、私が世界で12番目であり、日本では初めてです。受賞の理由は、まずは褥瘡対策に関する、研究、実践、政策的活動に関して、世界の看護のモデルとなったこと、さらに新しい学問分野を展開し、イノベーティブな活動を展開したことでした。とりもなおさず、新しい学問分野とは、看護理工学（Bioengineering Nursing）にほかならず、世界の看護界に紹介されたことが、私にとって何よりも嬉しいことでした。この賞は、看護学、医学、理工学、企業による学際的研究というより、これらの領域の協働で、看護の現場に大きな風穴を開けたチームサイエンスと表現したほうが良いと思っています。つまり、私個人への賞というよりも、この看護理工学の設立から、今日に至るまで、協力を惜しまなかった会員の皆様をはじめ、役員の皆様のおかげであり、心より感謝しております。　学会ではさまざまなプロジェクトが活発に活動する中、特に顕著な実績は、看護師が必要とするエコー開発から普及に至るまで、当学会が行ってきた出版や技術講習などの多大な貢献がなければ達成されなかったと思っています。現在では在宅看護の中ではデフォルトスタンダードになりつつあり、また、看護系大学の中では、日本看護系大学協議会が推奨するコアカリキュラムの中に、排尿、排便のフィジカルアセスメントにエコーを使うことが含まれました。

これは一例にすぎませんが、これからの地域包括ケア、そして2040年までの超高齢社会の世界のモデルとなる新しいイノベーションがこの学会から起こるためにも、若手研究者への支援を心よりお願い申し上げます。

## ◆リレー執筆第6弾　“理事からのご挨拶”

松田 友美 先生　（山形大学大学院 医学系研究科 看護学専攻在宅看護学分野 教授）

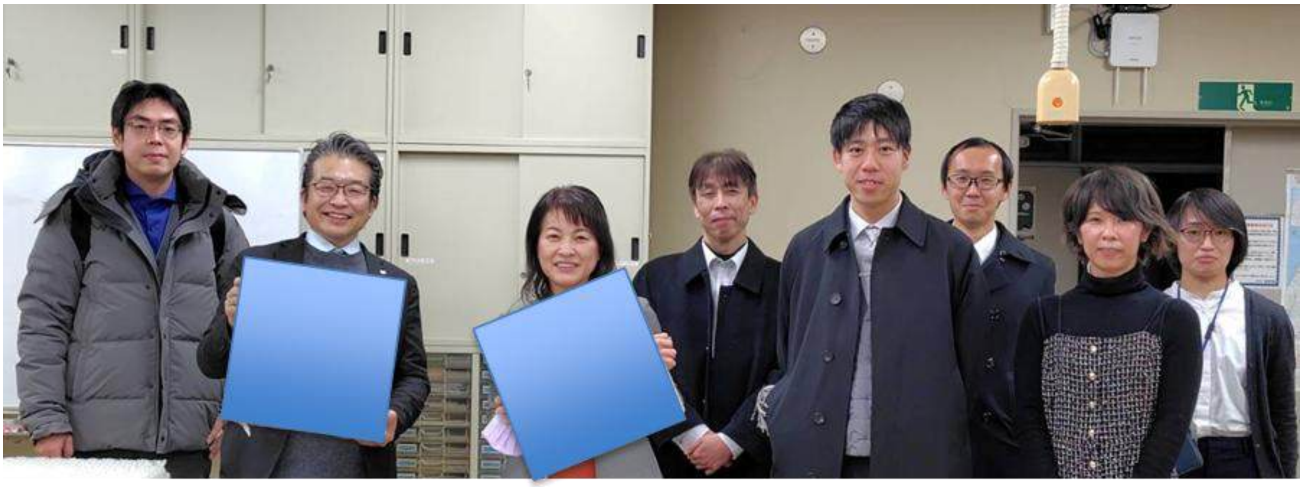
### 「看護理工学は看護を可視化する」

2022年より看護理工学会理事として学会賞選考委員会の委員長を務めております、松田友美です。寄稿の機会をいただき、心より感謝申し上げます。

私は臨床・在宅の現場で10年ほど看護に携わった後、基礎医学と看護学の両面から看護実践を探究する道へ進みました。現場で常に感じていたのは、「看護の働きかけ」が対象に及ぼす影響の多様性と、それを第三者に伝えることの難しさです。この看護の“可視化の困難さ”の本質的課題は、まさに看護理工学によって解決されるのではないかと考えています。

かつて「習うより慣れろ」と言われた看護の技術や感覚も、理工学的手法により可視化・定量化されることで、教育・伝達可能な知に転換される可能性が拡がります。その実践に係る根拠は、実践学問としても必要不可欠です。対象の疾患や背景が多様化・複雑化している現代においては、看護の根拠は現状分析やケアの取捨選択に不可欠なものとなっています。その根拠の一つにも貢献できるように、私達は現在、工学部や企業との産学官連携により、看護の現場ニーズに根ざした製品の開発に取り組んでいます。分野を越えた対話の中で生まれる視点の多様性は、研究者としても大きな刺激であり、教育においても学生のモチベーションが向上しています。

将来的には、熟練看護師の暗黙知を新人看護師でも理解・再現できる支援ツールの開発などが進むことを期待しています。これは単なる技術支援にとどまらず、「経験の質」を継承し、看護の質保証や教育体系の再構築にも寄与する取り組みになると考えます。若い世代の皆さまには、ぜひ臨床で芽生えた問いを研究へとつなげていただきたいと思います。看護理工学の融合が、実践知を形式知へと昇華させ、看護の未来を学術的に支える土台となることを信じています。



共同開発の先生方と打ち合わせの時に撮影

## ◆第７回ものづくり体験ワークショップ報告

北村 言 先生
（石川県立看護大学 看護専門領域 成人・老年看護学講座 老年看護学 教授）「看護理工学会次世代委員」

2025年7月26日(土)、27日(日)に第7回ものづくり体験ワークショップを開催し、20名(看護系5名、工学系12名、企業2名、話題提供・成果発表会への参加1名)の参加がありました。次世代委員会では、「ものづくり体験ワークショップ」と「ニーズ解釈ワークショップ」を毎年開催しています。「ものづくり体験ワークショップ」では 、企画からプロトタイプの作成までのものづくりの一連の流れとともに連携相手のものの見方 ・考え方を 、ニーズ解釈体験型ワークショップでは 、取り組むべき課題を整理する思考を学ぶことができます 。どちらのワークショップも看護系・工学系・企業のバックグラウンドが異なる参加者でグループワークに取り組みます。これまで、次世代委員会委員がワークショップの運営、グループのファシリテーターを務めてきましたが、今回は、過去にワークショップに参加したことのある会員4名が異分野連携ファシリテータ育成WGメンバーに加わりました。

今回は、「看護師が行う食事支援」をテーマに、話題提供者より看護実践の詳細を説明いただきました。その後、グループでテーマに潜む根底の課題を抽出し、「誰にどんな効果をもたらす方法」がその課題解決につながるかを考え、ニーズステートメントを作成しました。メンバー毎に課題の捉え方が異なることで生まれる多面的な議論を通して、看護系の参加者は既存のケアを改善するための思考法を、工学系の参加者は看護実践において大切にされている視点を学びました。それぞれが学んだことを活用し、作成したプロトタイプを成果発表会で披露しました。成果発表会に向けた準備から発表に至るまで「良いものづくり」をするために、楽しみながらも実際の開発現場を彷彿させる熱い議論が交わされていました。ワークショップ終了後にも多くの参加者がその場に残り、この熱を冷ましてはならないという思いが伝わる会となりました。今後もものづくりの面白さを参加者の皆様と共有できることを楽しみにしております。

※1 看護理工学会次世代委員会 委員
※2 看護理工学会次世代委員会 異分野連携ファシリテータ育成WG メンバー
桑名健太※1、吉田美香子※1、雨宮歩※1、金澤悠喜※1、北村言※1、楠田佳緒※1、武石陽子※1、長江祐吾※1、三原陽一郎※1、吉本佳世※1、因直也※2、篠﨑真良※2、武井裕輔※2、姫野雄太※2

## ◆第13回看護理工学会学術集会　大会長からのメッセージ

大会長　平井 慎一 先生（立命館大学　理工学部　教授）

立命館大学ロボティクス学科の平井と申します。
第13回看護理工学会学術集会の大会長を仰せつかり、実行委員一同で大会の準備を進めています。
第13回学術集会は、2025年11月8日（土曜）と9日（日曜）の二日間、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市野路東1-1-1）ローム記念館で開催いたします。
学術集会のテーマは、看護理工「学」の確立を目指して、社会課題の解決を目指す看護理工学と設定いたしました。看護理工学会では、看護学、医学、理学、工学、情報学という、バックグラウンドや目的、方法論が異なる学問領域が協同して、看護という社会課題に取り組んでいます。看護理工学会の設立以来、10年超の活動を通して、様々な連携が生まれ、多くの成果が得られています。これまでの歴史を踏まえて、看護理工「学」について議論を深める機会になればと考えます。
立命館大学びわこ・くさつキャンパス（Biwako-Kusatsu Campus 略してBKC）は、1994年に開設されました。現在、BKCは、理工学部、生命理工学部、薬学部、経済学部、スポーツ健康学部、食マネージメント学部を有しています。また、2025年4月に、オープンイノベーション拠点となるグラスルーツ・イノベーションセンターが開設されました。看護学に関連する様々な研究や開発を進めておりますので、紹介する機会を設定する予定です。
第13回学術集会のウェブサイトは https://nse2025.net/ にあります。
必要な情報を随時アップしますので、ご覧ください。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

# ◆第13回看護理工学会学術集会懇親会（ボウリング大会のお知らせ）

第13回看護理工学会学術集会　イベント係

第13回看護理工学会学術集会懇親会は、**ボウリング大会**を企画いたしました。若い先生から経験豊かな先生まで、どなたにも楽しんでいただけるよう準備を整えております。ぜひこの機会にリフレッシュしていただき、交流のひとときをお楽しみください。
皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

今回は皆様に、和気あいあいと懇親会を楽しんで
いただくためにボーリング大会を企画いたしました。
皆様のご参加をお待ちしております。

**若手×ベテラン×アカデミア×企業など、交流を楽しみましょう！**

日　時：2025年11月8日(土)18時～
場　所：草津アクト　滋賀県草津市野路3丁目1-5
https://act-amuse.com/shop_list/kusatsu_shop/
参加費：一般4,000円、学生1000円
レンタル靴、軽食や飲み物を含んだ費用です
内　容：2ゲームを編成されたチームで対抗します。
優勝チームには商品を準備しています。
申し込み：**2025年11月3日(月)締め切り**
下記のQRコードからお申し込みください。

**70名限定！先着順です！**
**お早めのお申し込みを！**

研究グループ等での懇親会を予定されているかもしれませんが、
まずはボーリングをしてからの飲み会企画を、滋賀の夜はたっぷりと時間がございます。

第13回看護理工学会学術集会大会長　平井 慎一
イベント担当　岡山 久代、田原 大輔、二宮 早苗、内藤 紀代子、寺澤 瑛利子

ご不明な点は、内藤紀代子まで　✉k-naito@biwakogakuin.ac.jp

# 学会からのお知らせ

看護理工学会の最新論文は,
J-STAGEおよび学会HPで公開されています。
是非ご覧ください。

J-STAGE[看護理工学会誌]
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jnse/-char/ja/

看護理工学会HP
http://nse.umin.jp

## ニュースレター発行

### 広報委員会

委員長：浅野 美礼　（信州大学）
委員：大貝和裕　（石川県立看護大学）
内藤 紀代子（びわこ学院大学）
青木 真希子（順天堂大学大学）
寺澤 瑛利子（大阪大学）
岡山 久代　（筑波大学）

### 看護理工学会事務局

〒169-0072

東京都新宿区大久保2丁目4番地12号
新宿ラムダックスビル（株）春恒社 学会事業務内
TEL：（03）5291-6231
FAX：（03）5291-2176
E-mail：nse-society@umin.ac.jp

**賛助会員**（五十音順）

アルケア株式会社
グローバルマイクロニクス株式会社
株式会社ケアコム
ケアライフ有限会社
株式会社ケープ
サラヤ株式会社
株式会社春恒社
株式会社照林社
大王製紙株式会社
ホーム&パーソナルケア
　国内事業部マーケティング本部
ディピューラメディカル
　ソリューションズ株式会社
テルモ株式会社ホスピタルカンパニー
　収益改善室管理
ニチバン株式会社
ニプロ株式会社
パラマウントベッド株式会社
富士フィルムメディカル
　株式会社超音波事業部
株式会社ベーテルプラス
メンリッケヘルスケア
　株式会社ウンドケア事業部
株式会社モルテン
ユリケア株式会社